

エピソード44

子どもに沢山の支援を
保護者が求めています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。エデュサポネットのファ
シリテーターです。



小学校の先生が、若かった頃に
経験したお話をお聞きします。

僕が初めて3年生を担当した時のことです。
ひろみさんは発達に偏りがあって、
様々な場面で個別の支援が必要でした。

僕は、学年の先生たちからアドバイスを
もらいながら、やっていました。





ひろみさんのことで、
どんなことがありましたか。

ある時ひろみさんのお母さんから電話が
来て、もっとこんな支援をしてほしい、
とたくさん要望がありました。

お母さんが相談している専門機関から、
学校に要望するよう言われたそうです。





先生はどうしたのですか。

お母さんの要望していることは、僕も
できたらいいだろうなと思うことでした。
でも、学校としては難しいと思いました。

それでお母さんに、いい提案だと思うが、
学校としては実現が難しいと伝えました。





お母さんの反応はどうでしたか。

僕の言葉を聞いて「ひろみは、この支援があればとても楽になるのに、結局学校は何もしてくれない」と怒ってしまいました。

僕は困ってしまって、謝るだけでした。





その後、先生はどうしたのですか。

困った僕は、学年の先生に相談しました。

すると「全部が全部、できないわけでは
ないんじゃないかな。1か100かで
考えてはだめだよ。」と言われました。





学年の先生が言ったことは、
どんな意味だったのでしょうか。

「全部はできないけど、これならできる。
そこまではできないけど、ここまでなら
できる。そう考えたらどうかな。

できることが見えてくるんじゃない
かな。」と話してくれました。





保護者が怒ってしまったことについて、何か話してくれましたか。

お母さんは「できません」と言われて、すべて拒否されたような気持ちになったから、怒ってしまったのではないかと思う。

「これならできる」という言い方をすると、聞いてもらえた、受け入れてもらえた、と教えてくれるよ、と教えてくれました。





先生は、その話を聞いてどう考えましたか。

学年の先生から教えてもらった考え方は、
いろいろな場面で使えると思いました。

これからは、無理だと思うことでも、
できることを見つけてみようと思いました。





なみちゃんの一言

- 保護者からたくさん要望が出されると、それは無理だ、と思ってしまうかもしれません。
- そんなときは、一つ一つの要望をステップにして考えてみると、できることとできないことが見えてきます。
- 保護者と一緒にステップを考えて、折り合い点を見つけることで、前に進むことができます。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)